

「女子専門学校」卒業生（看護、保健）の職業意識と家庭生活の意識  
 に関する調査 — 県立総合看護専門学校卒業生の場合 —

石川県立総合看護専門学校 永原朗子

目的 高度経済成長が始まり、昭和30年代以降、女子雇用労働者は年々増加の傾向にある。このような背景の中で「看護婦、保健婦」という専門的技術を習得した本校の卒業生を対象に「職業意識と家庭生活の意識」を調査し、その実態を把握することはより職業継続の高まりはどうかという起因によるのか、職業中断はどうかという起因によるのかを探り職業継続と家庭生活の両方を家庭経営学の視点から捉えてゆくことを目的とする。

方法 調査期間：昭和59年12月1日～12月31日 調査方法：郵送による質問紙法 調査対象—回収数（率）—分析数：オ一看護学科卒業生 82名—58名（70.7%）—58名、保健学科卒業生 198名—116名（58.6%）—116名

結果 職業継続意識の高まりの起因 ①自分自身の将来の生活設計をたて仕事に就く。②健康で家族の協力や理解、コミュニケーション、自主精神を互いに持つ。③「自分の職業」を生きるとして支えにし「家庭」と「仕事」との両方を前向きに考えて努力する。④仕事に対して積極的になり責任感を持ちプロ意識を持つ。⑤家族の間で自分の仕事について話し合う機会を持つ等であり、職業中断の起因は結婚、家事、育児のためが全体の7割を占めている。174名の回答者のうち仕事に就いている人は162名（93.1%）、仕事をやめた人は既婚者の6名（3.4%）だけである。既婚者で仕事に就いている人は現在、非常に多忙であり自分の時間が持てない、育児期間中は家の中にいる方がよいかも知らない等、悩みはあるものの、働く女性と主婦との間で絶えず接点動をなからず家庭と仕事の両方を前向きに考えてゆく姿が調査結果からくみとられる。